

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和5年10月16日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	酒井会長、長谷川副会長、浅川委員、阿部委員、表委員、片桐委員、金委員、小池委員、小宮山委員、杉原委員、高井委員、土屋委員、山寄委員
5 市側出席者	室賀健康こども未来部長、町田健康推進課長、山崎保育課長、翠川保育課保育担当政策幹、清住市立産婦人科病院医事課長、塚田市立産婦人科病院看護課長兼総師長、山口障がい者支援課長、長田学校教育課長、金子子育て・子育て支援課長、川口母子・精神保健担当係長、片田母子・精神保健担当係長、大木保育担当係長、中村保育・保育施設担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、高寺発達相談センター次長、佐野子育て・子育て支援担当主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	1人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年11月 日(火)

協 議 事 項 等

1 開 会 (金子子育て・子育て支援課長)

2 あいさつ (室賀健康こども未来部長)

3 人事通知書の交付

4 委員自己紹介

5 事務局紹介

6 上田市子ども・子育て会議について【資料1】

事務局から説明

質問・意見

(委員)

資料1の2頁7番「◎留意点【※抜粋】」について、現在の計画の施策の中には児童発達についての項目もありますが、留意点の項目を見ると、児童発達に関するところがないようですが、引き続き支援体制があるということでしょうか。

(事務局)

資料1の2頁7番「◎留意点【※抜粋】」⑥児童福祉法による新事業の量の見込みの設定についてのところで新事業が3つありますが、「親子関係形成支援事業(親子関係の構築に向けた支援)」のところで、子どもの発達の状況等に応じた支援を行うペアレントトレーニング等が該当しており、この部分が発達に関わる部分で、今回新たに設定するよう出ておりますので計画に反映してまいります。

(委員)

資料1の4頁中、平成30年度で実施したワークショップでは、対象を男性と女性に分かれており、テーマについて「男性の仕事と家庭の両立」等となっておりましたので、今年度実施する場合には、テーマや内容についてジェンダー平等に配慮したものとしていただきたいと思います。

(事務局)

前回の計画から5年が経過し、又、今年度からこども家庭庁が設立されるなど、急激に変化してきておりますので、そういったことを十分踏まえ、委員の皆様のご意見をお聞きしながら検討してまいります。

(委員)

アンケート調査やワークショップは、数年に1回のとても大切な機会だと思っています。国から示された量の見込みを算出するための地域のニーズ調査ということで、それを目的にしたアンケート項目になっているという事は理解できます。しかし実際にここで子育てし暮らす子どもたちは、量というよりは質というところが非常に重要です。上田市独自のアンケート項目にしましても、ワークショップの内容にしましても質を高めるためにも、この子育て会議の内容を含めて検討していただきたいと思います。

アンケート調査やワークショップの対象者は、保護者と子どもとお聞きしましたが、同じ家族の中の保護者と子どもなのか。又は、別の家族の保護者と子どもを対象にするのかお尋ねします。

(事務局)

今までは保護者の方だけを対象にアンケート調査を行っていましたが、今年度からは子どもも対象ということですので検討してまいります。

(委員)

アンケートの回収率を高めるために、依頼の仕方の工夫等が必要だと思います。ワークショップについては、前回、高校生を対象にしたワークショップを開催したとお聞きしました。今回は小・中学生など様々な学校の子どもたちというイメージでしょうか。

(事務局)

現在、検討中です。

(委員)

会長もおっしゃっていましたが、アンケート調査では質を高めることがすごく大事だと思います。子育て施策は多岐にわたるため、本会議の委員が集まる中で、アンケートを作成していく段階で関わっていくことを検討していただきたいと思います。

(事務局)

アンケートについては国必須の項目や市独自の項目を追加しております。国と市の項目をお示しし、皆様からご意見いただければと思っております。

(委員)

発達支援の項目など、ここだけは大事というのがあると思いますので、それを吸い上げていただきたいと思います。

(委員)

期間が短い時間の中で、国の必須や市独自の項目を含め、設問が多くなってしまうと回答する側の負担が増えるといったデメリットとなりますが、入れていただきたい項目を提案させていただく等、事前に意見をお伝えさせていただけたらと思います。

(事務局)

次の書面会議の時にご提案させていただき、ご意見をいただければと思います。

(委員)

アンケートやワークショップはとても大事だと思います。結果を集計した後、それをどう理解するのか、アンケート結果は数値で表せますが、調査に漏れている部分や調査の背景にあるものなどを検討するためにも、最後の会議では協議できる場を設けていただきたいと思います。

(委員)

調査してどう理解したらいいのか、調査に漏れていたものや背景にあるものを理解するためのワークショップと考えると、調査結果が集計されてからワークショップを開催するという計画は難しいでしょうか。

(事務局)

前回の平成30年度ではアンケート集計後にワークショップを開催しております。今回、結果報告書を県に報告するまでの期間を逆算しますとタイトなスケジュールですので、調整等しながら進めてまいります。

7 議事

(2) 上田市西内保育園の閉園について【資料2】

事務局から概要説明

(3) 西内子育て支援センターの廃止について【資料3】

事務局から概要説明

質問・意見

(委員)

西内保育園の閉園は利用者も少ないので致し方ないと思います。小さな支援センターは、外に出ていかれないお母さんにとってとても大切で寄り添える場だと思います。なかなかセンターに来られないお母さんたちを、どうやって手を差し伸べていくのか、事業として引き続き考えてやっていっていただきたいと思います。

(事務局)

大勢のお母さんたちの中に入れないお母さんもいることは、十分に理解しております。健診といった機会を利活用するなど、今後、様々な機関と連携を強めながら支援していきたいと思っております。

(委員)

保育園に地域外の方が3名利用されておりましたが、どのようなニーズでご利用されていたのでしょうか。

(事務局)

地域外の方で利用されていた方は、通勤途上でのご利用でございます。

(委員)

鹿教湯方面に通勤されている方々のニーズもあると思いますが、企業内での託児所を推進していくなど、企業と検討していけたらいいと思います。

(事務局)

地域内における従業員の保育所はございますので、協議してきた経緯はございます。地域外の方2名につきましては、勤務先というご都合でご利用いただいておりますが、今後、お子さんの小学校入学といったことなどを踏まえますと、地元の保育園利用についてご理解をいただきました。

(4) その他

議事に関する質問・意見なし

8 その他

(委員)

各委員の皆様には大変お忙しい中お集まりいただきありがとうございます、せっかくの機会ですので、さらに有意義な会議になるよう、子どもや子育てに関する事で、委員さん同士で自由なお話ができればと思っております。特にテーマを設けずに子どもや子育てについて感じていることや、共有したいことなど思っていることをお話ししていただきたいと思っております。

(委員)

障がい福祉の分野と子どもたちについて、発達支援や子育てのしづらさなど、公的な機関では障がいだから福祉ではなく、子どもの支援として充足的にバックアップしていただけるような、安心して育てていけたらと思っております。

(委員)

特別支援学校に通っていた方から、乳幼児期から小学校に入学して、気持ちの整理がつくまではとても辛かったとお聞きしました。アンケートにもぜひ障がい福祉や、発達支援等の意見を含めて欲しいと思っております。アンケートは無作為で配布するので難しいとは思いますが、悩みを抱えている人、障害を持っている人、人との関わりが難しい人の話を聞けたらいいなと思っております。

(委員)

保育園や幼稚園では、発達困難さを抱えている子や保護者の方が増えました。どの園も数名受け入れておりますが、特に私立の園に集中する傾向がどの自治体にもあります。この会議の名前が子ども・子育てということで、子どもを対象にした施策を上田市としてどう取り組んでいくのかという視点を持った会議だと理解しています。対象は子どもである以上、すべての子どもを対象とした議論ができる場になって欲しいということと同時に、そういうことを包括的に受け止められるものを上田市として工夫していただきたいと思っております。障がい者支援課でも障がい児の施策について担当し、包括的に施策の位置付けが市でできれば素晴らしいと思っております。保護者の立場からすると、どこに相談すればいいのかわかりづらく、入口を探すのに迷うと中々繋がりません。園まで足を運んでくれる保護者であれば何とかできるが、そこまで来られない場合には、子どもだけの支援だけではなく家族や家庭への支援が重要になります。この会議で全ての子どもを対象とした施策を考えて欲しいですし期待をしています。また、園では障がいを持っている子どもたちの加配として、職員がつかますが、その職員だけでなく他の職員も障がいを持っている子どもの特性やどう配慮したらいいか、市全体で具体的な対応ができるような研修会を開催していただき、地域全体で考えられるようになっていけるといいと思っております。

(委員)

上田市では、教育分野をみても個別で活動されている方や、文化的な分野で地域を盛り上げようと活動されている方がいますが、そういう方が線につながり面になり、それが上田市の特徴となるのかなと思えました。子どもたちが上田市で過ごして本当に良かったと思ってほしいし、思えるようになってほしい。また、学生が上田市で先生をやりたい、上田市の子どもたちと一緒に生活したいと思えるようになって欲しいと思っております。

(委員)

仕事をしながら子どもを育てていますが、ファミリーサポートセンターの存在がとても大きく頼りになります。最近、支援員が高齢化してきて運転が困難になるなど、マッチングが合わなくなり利用ができなくなる場合もあります。障がいがあるお子さんも利用されていますが、対応できる支援員が減ってきています

ニーズは高いです。保育園や放課後児童クラブは目に見えて分かりやすいですが、地域を守っている施設の人の声も聞いていただけると安心できると思えました。

(委員)

ファミリーサポートセンターは、すごくありがたいサービスだと思います。高齢化して共働き夫婦も増えているので、仕組みは難しいですが支え合えたらいいなと思います。

(委員)

障がいを持っている子が利用する放課後デイがありますが、子ども・子育て会議ではなく福祉分野になっています。上田市でもセンターがどういう形で受け入れて、そこから外れている子どもたちがどういう状況か全体像がつかめてないと思います。この会議においても障がい者支援課でも、そのことについて一緒に考えてほしいです。

(事務局)

補足ですが、第2次計画の量の見込みに向けた施策に係る関係課の事業を載せており、それら事業を展開しながら量の見込みを含め取組んでおります。放課後等デイサービスも含めまして、施策の展開として組み入れさせていただいております。また、第3次の計画に向けては、関係課で調整会議を行いながら、又、5年前と状況等変わっておりますので、委員さんのご意見を十分踏まえながら検討していきたいと思っております。

(委員)

少子化の一方で、望まない妊娠というのがあると思いますが、小さい頃からの性教育がすごく大事で、子どもたちが性犯罪の被害者・加害者にもならないためにも、子どもの頃から正しい知識を教えることが大切だと思います。親が教育をできればベストですが、それが中々難しいと思いますし、できちゃったのは無知だからというのもあります。産みましたが、でも育てられないから虐待になるということもでてくると思いますので、前回のワークショップにも「パパやママになる姿」とありますが、パパやママにはすぐになれるものでもなく、なるにはそれなりの覚悟が必要で簡単なことではないという知識を教えることが大切だと思います。子どもを守るためにも、ネットやSNSでの間違った情報を判断することができる正しい知識を、小さい頃から学べるような機会があればいいと思います。

(委員)

学校では子どもたちの発達に応じた性に対する学習について、担任のみならず養護教諭含めてそれぞれの立場で、プライベートゾーンに関する学習から性に関する学習と、昔よりだいぶ進んだ学習を進めています。間違えた知識や冷やかし、子どもたちからの性的な言葉も、授業の後では大分改善された事例もあります。性に関する学習は必要な部分であり多くの職員で関わり学習を深めております。

(事務局)

性教育のお話ですが、市立産婦人科病院の助産師が小中学校に出向いて出前講座を実施しております。まだまだ足りないと感じておりますので、学習を深めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

(委員)

学童保育所では高学年も利用していて、性のことなど親には聞けないことも先生には聞ける関係作りができてきていると思います。1つ1つのことを気軽に聞き、それに対して回答をできる職員体制ができてきていると思いますし、色々なことに対応し包括的な支援をしていると思います。学童保育所からの要望ですが子育て応援ハンドブックは活用しづらいところがあります。また市のホームページで検索できますが、支援方法を1つ1つのページでダウンロードしないとイケません。それぞれに対応する専門家や交通整理してくれる窓口、上田市ではどんな支援や施策があって、子育てコーディネーターや発達支援についてはどこに案内口があるのか、分かりやすくしてほしいです。

(委員)

個人的な意見ですが、学童保育所や放課後児童クラブなどはすごく重要な役割だと思っています。今の子どもたちは学校と家の往復だけでそれ以外の第三の空間がない。昔は親や先生の視線から離れて遊んだり悩みを言ったりした空間があったのですが、今はなく、この役割を担っているのが学童保育所や放課後児童クラブではないかと思っています。ですので、学童保育所の先生に相談できる関係、第三の空間としての居場所である重要性、子どもだけでなく保護者にとっても第三の空間になっているとあらためて思いました。子育て応援ハンドブックについてですが、本学でも毎年学生に学生生活ハンドブックを作成していますが、学生はあまり使わないので、冊子ではなく誰でも気軽に来られる場所や相談できる人が大事だと思います。

(委員)

保育園の延長保育を担当していますが、学童保育所の大変さを感じています。その日初めて会う保護者の方への声掛けや対応が大事で大切にしています。

(委員)

保護者や子どもたちが、どこでどういう問題を抱えているのか見えてきました。アンケートやワークショップは重要な機会ですし、結果が大事ですので、お互いの立場、子どもたちを守りつつ、よりよい社会を作っていければと思います。

・次回日程

書面会議にて期日等は後日お知らせする。

9 閉会